

2013年度環境活動レポート

対象期間：2013年7月～2014年6月



マトヤ技研工業株式会社
2014年7月31日発行

目 次

1. 経営理念	3
2. 環境方針	4
3. 組織の概要	5
4. 認証・登録の対象組織・活動	7
5. 2013年環境目標とその実績・評価	8
6. 2013年環境目標の取り組み計画と評価	9
7. 2014年度の取り組み	10
8. 環境関連法規等の順守状況	11
9. 代表者による全体の見直しと評価	12
10. 環境活動の紹介	13

1. 経営理念

- 社会的信頼と責任

会社を取り巻く人々と誠意を持って協調し、お客様の視点で考え、お客様に安心して安全な機械装置を提案し、社会的信頼と責任を果たします。

- 会社の発展

永続的発展を第一とする健全経営を推進し、業界の先頭に立ち、絶えず新技術を創造し、社会から支持され、信用される企業経営に努めます。

- 社員の幸福

社員の幸福の達成に努め、社員は産業人として絶えず研鑽に努め、創意工夫と進取挑戦の精神で仕事に取り組みます。

2. 環境方針

マトヤ技研工業株式会社 環境方針

人類の利便性を求める経済活動が一方では地球環境の破壊に繋がり、人類の存在を脅かしています。

マトヤ技研工業は、「低炭素・循環型・自然共生社会」を考慮し、省力化・環境配慮機器の開発、製作、販売事業、並びに有益な社内環境活動を通じ、持続可能な社会環境を追及してまいります。

1. 事業活動全般における購入資材のグリーン調達、電力・燃料等のエネルギーの効率利用や水資源の有効利用による環境負荷及びコスト削減を追及し、最適な企業活動を目指します。
2. 省力化機器メーカーとして、お客様に省力化や環境配慮商品を供給し、労働負荷や環境負荷並びにコスト軽減に貢献する企業を目指します。
3. 業務及び製作工程における一般・産業廃棄物の発生を抑制し、発生物は資源への還元を目指します。
4. 当社周辺の緑豊かな地域に鑑み、化学物質の適正保管と使用、排出抑制を行なうと共に生態系への影響の少ない物質への切替えに取り組みます。
5. 地域に育まれる企業として、地域周辺の環境保全に全社員で取り組みます。
6. 環境保全活動を系統的に運営し、定期見直しを行い、継続的改善・汚染の予防を積極的に実施します。
7. 環境関連法規及び同意したその他の要求事項を順守する等コンプライアンスの向上を目指します。
8. この環境方針は、当社の環境活動の指針として全従業員に周知し、一般の方に公開します。

制定日：2008 年6 月1 日

改定日：2013 年7 月1 日

代表取締役 益留 福一

3. 組織の概要

(1) 名称及び代表者名

マトヤ技研工業株式会社
代表取締役 益留 福一

(2) 所在地

本社 〒899-8608
鹿児島県曽於市末吉町南之郷3050-6

大阪営業所 〒561-0853
大阪府豊中市服部南町1-4-10

東京営業所 〒121-0011
東京都足立区中央本町4-15-13

(3) 環境管理責任者氏名及び担当者連絡先

環境管理責任者 豊増 敏夫（取締役専務）
環境事務局 益留 房代（取締役総務部長）
連絡先 TEL 0986-76-0018
FAX 0986-76-2729
E-mail info@matoya.com

(4) 創業 1985年6月

益留、豊増、山内 の三名で創業。
それぞれの頭文字からマトヤと名付ける

(5) 事業内容 自動省力機器設計・製作および販売



(6) 事業の規模 (2013年度：2013年7月～2014年6月)

売上高 502百万円

従業員	本社	大阪営業所	東京営業所
	36名	1名	2名

(7) 当社のプロセス

開発・発明



設計



加工



組立



据付工事

食肉・食品関連機械と電子部品生産システム自動車部品・クーラント関連機械の3部門 特許・実用新案は 23 件

<主な製品>



4. 認証・登録の対象組織・活動

適用範囲：マトヤ技研工業株式会社 本社

大阪営業所・東京営業所

事業範囲：自動省力機器設計・製作及び販売



MI会議の様子・・・月一回開催
社員の皆さんから提出された改善メモの検討を中心に会議は進みます。



5. 2013年度 環境目標及びその実績・評価

- | | 目標 | 実績 |
|---------------------------------|-----------------|---------|
| 1. 二酸化炭素排出量の削減 | | |
| ① 電力の削減：基準年比 | △2% | → 2.8% |
| ② 燃料の削減：基準年比 | △2% | → △4.9% |
| 2. 一般廃棄物の削減：リサイクル率 | 64% | → 66 % |
| 3. 産業廃棄物の削減：リサイクル率 | 87% | → 88 % |
| 4. 水使用量の削減：基準年比 | △2% | → △38 % |
| 5. 化学物質の低減：化学物質の保管管理及び保管場所の徹底清掃 | | |
| 6. 環境配慮製品の開発及び販売促進 | | |
| ① クーラント製品及び遠心分離機等 | | |
| ② 業務用 光触媒環境浄化装置 | | |
| | 2013年度 販売目標 24台 | 実績69台 |
| 7. 地域清掃活動 | | |
| | 2013年度 目標 41回 | 実績 49回 |
| 8. 購入資材・事務用品のグリーン購入 | | |
| | 2013年度 目標 71% | 実績 77% |

上記、1～8は、本社での実績表です。
 東京営業所と大阪営業所では、電力と水資源は、共有の為管理できませんので、自動車の燃料CO₂の削減と次年度へ反映させる為、一般廃棄物排出量の調査のみ行いました。



			基準年度 ※1	2013年度 2013年7月～2014年6月		
			3年間 実績平均	目標	実績	評価
売上高		売上高百万円	438	—	502	—
電力CO ₂ 排出量 ※2		購入電力kWh kg-CO ₂ 基準年度比	94,059 57,564 —	92,177 56,412 △2%	96,736 59,202 2.8%	△
燃料CO ₂ 排出量	本社	kg-CO ₂ 基準年度比	36,436 —	35,707 △2%	34,620 △4.9%	○
	東京	kg-CO ₂ 2012年度比	9,289 —	9,196 △1%	9,344 +0.6%	△
	大阪	kg-CO ₂ 2012年度比	8,160 —	8,079 △1%	6,535 △19.9%	○
一般廃棄物排出量		リサイクル率	63%	64%	66%	○
産業廃棄物排出量		リサイクル率	87%	89%	88%	△
水資源排出量		m ³ 基準年度比	422 —	413 △2%	259 △38%	○
化学物質の適正管理と 清掃		回	23	24	24	○
環境配慮製品販売量		台	23	24	69	○
地域清掃活動		回	40	41	49	○
事務用品グリーン購入		%	70%	71%	77%	○

評価は、○は達成、△は10%以内達成、×は未達成

※1) 基準年度：2010・2011・2012年度実績の平均値

※2) 購入電力のCO₂排出係数は、九電の平成24年度実排出係数0.612 kg-CO₂/kWhで算出しています。

6. 2013年度 環境活動の取り組み計画と評価

◎よくできた ○できた
△あまりできなかった ×できなかった

取り組み計画			達成状況	評価	取り組み計画			達成状況	評価
電力による二酸化炭素排出量の削減					節水				
冷房温度28℃設定	◎	設計室や加工場にも、断熱フィルムを貼りました。 デマンドの効果もあり、みんなの節電の意識も高まりました。 緑のカーテンは、あまりよく茂らず、効果は薄かったです。			雨水の有効利用（洗車等）	◎	事務所のトイレを節水タイプに変えたら、効果は大でした。		
暖房温度の18℃設定	◎				節水型トイレへ変更	◎			
不要休憩時間照明の消灯	○				化学物質の低減				
OA機器のこまめOFF	○				化学物質の保管管理及び清掃	◎	毎月、キッチンと管理も清掃も行って、在庫を増やさない努力をしました。		
エアコンフィルタの定期清掃	◎				塗装場清掃徹底1回/月(年12回)	◎			
緑のカーテン	△				在庫管理を行い在庫を減らす	○			
断熱フィルム	◎								
自動車燃料の二酸化炭素排出量の削減					製品への環境配慮				
急加速発進の抑制	◎	燃費を良くする為に、燃費調査も行ないました。軽トラックも新しい軽ワゴンに変えました。			クーラント 製品等の販売	◎	マグネットコンベアー等のクーラント製品は、コンスタントに売れました。光触媒環境浄化装置も、売れ始めました。		
冷暖房の控え目使用（27℃）	◎				業務用光触媒環境浄化装置の販売	◎			
買換え時はエコカーを購入する	◎				製品の計画・進捗状況の把握	○			
一般廃棄物の削減					社会貢献				
裏紙利用	◎	年々、みんなの意識が高くなり、裏紙利用や両面コピーは常識化しています。 ただ、ミスプリントが出ないように、印刷前には再確認をお願いします。			公民館の清掃	◎	毎週水曜日の掃除の日に、協力し合ってきれいにしています。		
両面印刷コピーの徹底	◎				周辺道路の清掃	◎			
ミスプリントを減らす	△				購入資材・事務用品のグリーン購入				
雑誌カタログ段ボールの再生利用への徹底	◎				事務用品グリーン購入対象品の購入	○	事務用品のエコ率では、意識してエコ商品を購入しました。		
シュレッダー廃紙のリサイクル化	◎				購入資材の環境配慮	△			
産業廃棄物(廃プラ) の削減					省エネ性能の高い電気製品の購入	○			
委託処分廃棄物の削減	△	リサイクル率は、88%。 目標の89%にわずかに届きませんでした。			エコカーの購入	○			
工事での産廃の分別徹底	◎				クールビズ・ウォームビズの制服の購入	◎			
廃油を減らすために自社のクーラント装置取付	◎								
油の粘度を調査してマシニング機械等水溶性切削機の濃度管理を行う	○								

7. 2014年度の取り組み

(1) 2014～2016年度環境目標

東京営業所と大阪営業所の目標は
 ①環境方針等の掲示や環境活動レポートやマニュアルの設置
 そして定期的な環境学習
 ②燃料CO₂排出量の削減の取組
 ③一般廃棄物排出量データ把握
 以上を行います。

年 度		基準値	2014年度目標 2014年7月～ 2015年6月	2015年度目標 2015年7月～ 2016年6月	2016年度目標 2016年7月～ 2017年6月
項 目					
電力CO ₂ 排出量	本社 kg-CO ₂	2013年度	59,767	59,163	58,559
	前年度比	60,371	△1%	△2%	△3%
燃料CO ₂ 排出量 本社、東京・大阪営業所	本社 kg-CO ₂	2013年度	35,342	35,342	34,978
	前年度比	36,436	△3%	△4%	△5%
	東京 kg-CO ₂	2013年度	9,251	9,157	9,064
	前年度比	9,344	△1%	△2%	△3%
	大阪 kg-CO ₂	2013年度	6,470	6,404	6,339
	前年度比	6,535	△1%	△2%	△3%
一般廃棄物リサイクル率	%	3カ年平均値 63	65	65	65
産業廃棄物リサイクル率	%	3カ年平均値 87	89	90	90
水資源排出量	m ³	3カ年平均値 422	409 △3%	405 △4%	401 △5%
化学物質の適正管理と清掃	回	2013年度 24	24	24	24
環境配慮製品販売量	台	3カ年平均値 23	24	24	24
地域清掃活動	回	3カ年平均値 40	42	43	44
資材・事務用品のグリーン購入	%	3カ年平均値 70	72	73	74

(2) 2014年度活動計画

取 り 組 み 計 画

電力の二酸化炭素排出量の削減	一般廃棄物の削減	節水	社会貢献
- 冷房温度28℃設定 - 暖房温度の18℃設定 - 不要・休憩時間照明の消灯 - OA機器のこまめOFF - エアコンフィルターの定期清掃 - 断熱フィルム - 電灯のLEDへの交換	- 裏紙使用 - 両面印刷コピーの徹底 - ミスプリントを減らす - 雑誌、カタログダンボールの再生利用への徹底 - シュレッダー廃紙のリサイクル化 - 納入業者へ段ボールの引き取り依頼	- 雨水の有効利用（洗車等） - 節水トイレへの変更〔組立場〕	- 公民館の清掃 - 周辺道路の清掃
自動車燃料の二酸化炭素排出量の削減	産業廃棄物（廃プラ）の削減	化学物質の低減	購入資材・事務用品のグリーン購入
- 急加速発進の抑制 - 冷暖房の控えめ使用（27℃） - 買換え時はエコカーを購入する	- 委託処分廃棄物の削減 - 工事での産廃の分別徹底	- 化学物質の保管管理及び清掃 - 塗装場清掃徹底1回/月（年12回） - 在庫管理を行い在庫を減らす - 廃塗料ブースの設置	- 事務用品グリーン購入対象品の購入 - 購入資材の環境配慮 - 省エネ性能の高い電気製品の購入 - エコカーの購入 - クールビズ・ウォームビズ制服の購入
		製品への環境配慮	
		- クーラント製品 - 業務用光触媒環境浄化装置の販売	

8. 環境関連法規制等の違反、訴訟の有無

環境関連法規制等の遵守状況 法的義務を受ける主な環境関連法規制は次の通りである。

適用される法規制	規制内容	適用される施設物品等	適用される法規制	規制内容	適用される施設物品等
廃棄物処理法 (産業廃棄物)	- 委託先許可業確認 - 収集運搬・処理業者との契約 (委託契約・産廃管理票発行・5年間保管) - 産廃保管基準、保管置場の表示 - 産業廃棄物管理票交付等状況の行政報告 - 自社による運搬時の表示・書類携行 - 多量排出業者、産廃処理計画・実施状況報告書提出、特別管理産業廃棄物管理責任者の設置	廃プラ 金属くず 廃油 廃酸 コンクリートくず	消防法	- 届出(指定数量以上保管の場合) - 指定数量1以上:危険物倉庫 - 危険物取扱資格者の設置 - 指定数量0.2以上:少量取扱所	第4類:引火性液体 うすめ液 (指定数量以下で届出必要なし)
			毒物及び劇物取締法	- 事故時連絡 - 保管場所の表示 - 盗難、流出防止	硝酸
			労働安全衛生法	有機溶剤の適正な管理・MSDSの周知	うすめ液
浄化槽法	- 設置届出・浄化槽の維持管理 - 定期点検・定期清掃・定期水質検査	合併浄化槽	特定化学物質障害予防規則	密閉化・漏洩防止・腐食防止	硝酸・うすめ液
自動車リサイクル法	使用済み車は引き取り業者に引き渡す。新車購入時にリサイクル費用を支払う	自動車	有機溶剤中毒予防規制	MSDSの周知・掲示・換気・保護	
家電リサイクル法	家電製品の廃棄時にリサイクル料金支払い	TV、冷蔵庫、家庭用エアコン	フロン回収・破壊法	フロン類の適切な処理、回収・破壊の工程の確認、規制基準の遵守、引取・処理証明書交付保管	業務用空調設備 コンプレッサー
小型家電リサイクル法	- 使用済小型電子機器、その他の電気機械器具の再資源化促進 - 事業者の責務 - 使用済機器の分別排出、収集運搬又は再資源化を適正に処理し得る者への引渡し	家電リサイクル法適用外の使用済小型電子機器 その他の電気機械器具(通信機器、映像機器、音響機器、電動工具類等)	条例 鹿児島県地球温暖化対策推進条例	- 環境マネジメントシステムの導入 - 廃棄物発生抑制・再使用・再生利用 - 温室効果ガスの排出量の把握 - 公共交通機関等の利用再生可能エネルギーの優先的な利用	電力 自動車燃料
改正リサイクル法	パソコンの部品資源回収、メーカーへの引取り手続き・リサイクル	社内パソコン			
騒音規制法	特定施設の届出 空気圧縮機7.5kw以上。規制基準の遵守	空気圧縮機7.5kw 2台			

環境関連法規及び条例等への違反、また訴訟等の有無について、2014年7月に確認した結果、法律違反等はありません。

また、地域住民からの訴訟や苦情や要望、行政からの指導などは過去3年間ありません。(2014年7月28日現在)

9. 代表者による全体の評価と見直し

1. 環境活動の取組み結果の評価

2013年度環境負荷削減目標では、電力CO₂排出量が未達成でした。加工機の新規導入が主な要因ではないかと考えております。また、産廃のリサイクル率や東京営業所の車燃料削減が僅かに未達でした。その他の項目については、いずれも目標を達成でき、皆の意識の高まりと努力の結果だと評価できます。

地域の清掃活動も、目標回数は今や目標ではなく、日常的に班別の取組みが自主的にしっかりできていると評価できます。地域の人からも感謝の言葉を頂き嬉しいことです。

コンプライアンスは、2013年度も問題はありませんでした。

2. 実績の評価

昨年、デマンドを設置して、契約電力を65kWhに下げたから暑い夏も工場はエアコンの使用を控え、54kWhと言う結果を達成しました。梅雨が早く雨が多かったのも良い方向に向かったものと思いますが、冬の寒さの中でも工場の皆が辛抱した結果でしょう。仕事の効率は落とさないよう適度なエアコン使用を心掛けます。

車燃料は、東京営業所を除いて、目標を達成しました。エコカー2台の年間を通しての効果、皆の意識によると思われ、各車両の削減効果も出てきていると思います。引き続きエコドライブの意識を持って運転します。

一般廃棄物の廃棄物量は5Sに基づく倉庫の整理や古い書類を処分したため、増えましたが、大部分はリサイクルに回し、資源化されました。しかし、産業廃棄物のリサイクル率は僅かに目標未達で88%に留まりました。分別の一層の徹底が必要と考えます。水道水は、事務所のトイレを節水タイプに変えた事と、昨年までテスト後の水を破棄していましたが、今年からテストに使用した水をポンプで戻すことで十分に節水が出来た事や雨水タンクの増設で雨水洗車も増え、目標値を38%も減らすことが出来ました。更に化学物質の適正管理と清掃活動は目標を達成でき、事務用品グリーン購入率も77%で目標を達成できました。

3. 今後の取り組み

これまで試行錯誤しながら、毎年少しずつ目標が上って、達成はかなり至難な所に差し掛かって来ました。

工夫を重ねて何とか達成、または目標に近いところまで出来ました。

2014年度も引き続きアイデアを凝らしながら少しずつ前進して行きます。目標を立て、達成に向けて努力することが大切です。新工場（宮崎工場）も許可の手続きで遅れていますが今期中に建設します。電気の管理も別に行うこととなりますが、目標を設定して管理します。照明はLEDへ切り替えを進めます。

塗装場も新工場へ移設して環境を整備します。

営業車はリース更新車から順次エコカーに切り替えを推進する予定です。東京は営業車が1台増えました。燃料の消費も増えます。大阪と共に一層エコ運転に努め、目標達成を目指します。

10. 環境活動の紹介

1. 環境方針の周知



新人研修を行いました。現場でも酸洗い液の流出の際の対応を習いました。



鹿児島銀行の環境格付に認定されました



2013年度より適用になった営業所にも、環境方針を掲示しました。



エコ報告会



改善メモは、毎月一人2件提出されて、努力賞からダイヤモンド賞まで決定された後、掲示板に張り出されます。内容は、機械の改善からエコに関することまで、盛りだくさんです。

2. 環境関連法規の遵守



年一回の消火訓練を行いました。
消火器の使い方を習いました。



大震災を想定した避難訓練を行いました。
地震発生から1分40秒で集合出来ました。



災害時に避難する際には、
ブレーカーを落とすように決めました。

3. 二酸化炭素排出量の抑制



事務所横、南向きの窓には、ヨシズを立て掛けました。



設計室の東側の窓には、目隠しを兼ねた遮熱フィルムを貼りました。



電気使用の抑制の為に、デマンドを付けましたが、60kWを超える時には、サイレンがなり、エアコン等順次使用を停止します。そのおかげで、年間の最大値は54kWに抑えられています。

4. 資源の効果的活用の推進



ペットボトルの蓋の回収箱を食堂にも設置しました。

ペットボトルの蓋も古切手も、川内なでしこライオンズクラブへ贈呈します。
そこから、ボランティア活動として海外の子供たちのワクチンや資料支援になります。約430個で10円のワクチン代ができます
ポリオワクチンは1人分20円
20円で1人の子どもの命が救えます

届いた郵便物の古切手も切り取り集めました。





インク
ジェットプ
リンターの
カートリッ
ジは回収
ボックスで
完全回収し
ます。



複合機は、今まで、カ
ウンター方式を採用し
ていましたが、カウ
ンター方式ではない機械
本体のみの、リース代
だけで済むようになり、
年間のトナー代、カウ
ンター料金が90万円
ほどの経費削減になり
ました。



ゴミの分別もきちんとしています。
詳しい分別方法を蓋に書いてあります。



女子トイレを、節水タイプに交換しました。
以前は、和式の水洗トイレでしたが、1回の
水量が12L位だったのが、4.8Lになった
のです。音姫とのコラボで、今年度の節水
の一番の立役者となりました。



雨水タンク1号機



雨水タンク2号機



社員の手作りの2台の雨
水タンクで、社有車の洗
車の水も十分足ります。

5. 化学物質の適正な管理及び清掃



塗装場はいつも清掃を行ない
チェック表に記入しています

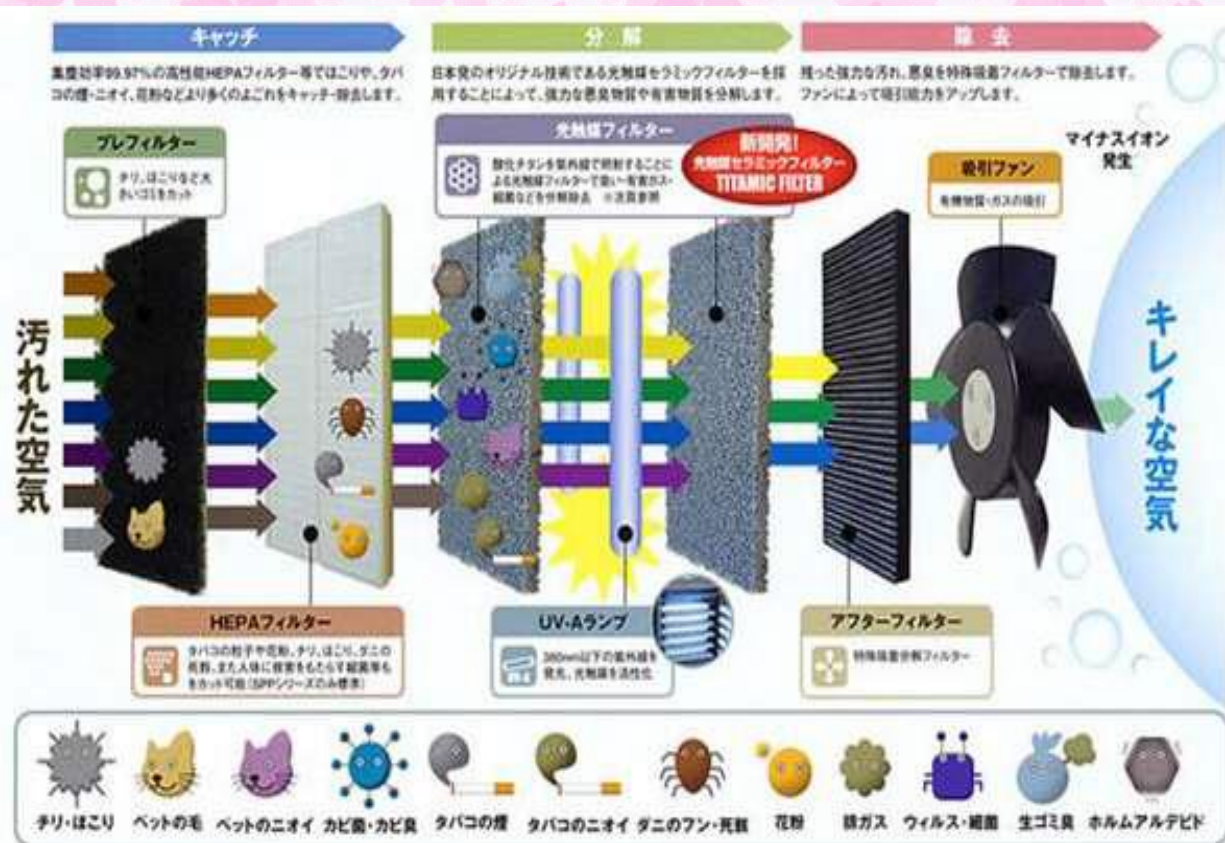
6. 製品への環境配慮

6-1. 環境配慮型クーラント製品の開発・販売



マグネットコンベアーは、機械部品加工会社の機械に取り付けて、切り粉をクーラント液の中から自動的に取り出すことによって、クーラント液の寿命を延ばし、クーラント液の使用量を減らす効果があります。(廃液が減る)

6-2. 除菌と消臭を同時に行う業務用光触媒環境浄化装置の販売



光触媒作用は、酸化チタンに紫外線を照射することによって起こる酸化・還元反応で、日本発のオリジナル技術です。

光触媒の酸化力はオゾン(O3)よりさらに強力で悪臭物質や有害物質を分解します。また、酸化チタンの表面のみで反応が進行するのでオゾンのように人体に影響がなく安全です。

高い耐久性と優れた**脱臭、除菌効果**を持つ新開発の光触媒セラミックフィルター(特許登録済 第4610135号)の活用により、従来の家庭用に使用されている光触媒フィルター型脱臭機に比べ非常に高い効果を発揮できます。



光触媒環境浄化装置を、食堂と社長室にも設置し、販売を促進しています。

7. 地域の環境保全事業への参加



自治会の公民館の庭の草刈り



駐車場の土手に彼岸花の球根を植えました



新工場予定地の草刈り



駐車場・周辺道路の清掃